

釧路川流域どう利活用

弟子屈5市町村参加し協議会

【弟子屈】釧路川流域全域の5市町村の首長らに参加し、「釧路川流域かわまちづくり協議会」の初会合が18日、弟子屈町の社会老人福祉センターで開かれた。釧路開発

建設部の呼び掛けによるもので、河川流域の全自治体に参加し協議会が発足するのは道内初めて。会合ではまず、会長に弟子屈町の徳永哲雄町長、副会長に標茶町の佐

藤吉彦町長をそれぞれ選任。続いて、協議会委員を構成する5人の首長と釧路開発建設部の坂憲浩部長が、釧路川流域の今後の利活用について発言した。この中で佐藤町長は「釧路川は、冬のカヌーツアーが非常に楽しい。ホーストレッキングも可能性が大きく、釧路川流域の魅力発信に、流

域自治体がタッグを組んで取り組んでいきたい」と述べた。協議会は今後、釧路川流域での観光価値の創出、環境教育の推進、そして環境ブランド化へ向けハード・ソフト両面での計画を策定。来年6月をめどに国交省へ申請し8月に計画登録が行われる見込み。(高橋力)